

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について

大山町教育委員会

平成30年4月17日に実施した「全国学力・学習状況調査」の大山町の結果について公表します。

今年度、この調査は、国語と算数・数学、理科の3教科についての調査であり、児童生徒の学力の全てを見ることはできませんが、町内の各学校ではこの結果を一つの手がかりとし、成果と課題を明らかにして今後の教育活動に生かしていこうとしています。

今年度の調査は、悉皆調査となっているので、町内の全ての小・中学校が参加しています。

大山町教育委員会では、学校の取組の進捗状況を把握しつつ、より質の高い教育の実現に向けて取り組んでいきます。

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- 教科に関する調査は、国語、算数・数学の2教科については「知識」に関する問題A、「活用」（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など）に関する問題Bを出題
- 理科に関する調査は、「知識」に関する問題を主として「活用」に関する問題を一体的に出題
- 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査を児童生徒と学校に実施

3 調査日時

平成30年4月17日（火）

4 大山町の参加状況

- 参加学校数 7校（小学校4校、中学校3校）
- 参加児童生徒数 257人（小学校6年生131人、中学校3年生126人）

5 調査結果の処理

○学力調査・質問紙調査の結果とも、国がデータ処理したものと大山町が独自にデータ処理したものを使用しています。

※ 結果の分析に当たって、国・県と比べて平均正答率等の差に応じて次のように表現しています。

- ・差が1%未満の場合、「ほぼ同等」
- ・差が1%以上 5%未満の場合、「やや高い(低い)」「やや多い(少ない)」「やや大きい(小さい)」
- ・差が5%以上 10%未満の場合、「高い(低い)」「多い(少ない)」「大きい(小さい)」
- ・差が10%以上の場合、「かなり高い(低い)」「かなり多い(少ない)」「かなり大きい(小さい)」

II 教科に関する調査結果

1 小学校

データ 1 学力調査結果 (小学校)

(1) 小学校全体について

- 県全体の平均正答率は、国と比較して国語A・B、理科はほぼ同等である。算数A、算数Bはやや低い。
- 大山町全体の平均正答率は、国と比較して国語A・B、算数B、理科がほぼ同等で、算数Aはやや低い。また、県と比較すると、国語A、理科がほぼ同等で、国語B・算数Aがやや低く、算数Bがやや高い。

(2) 国語について

- 国語Aでは、学習指導要領の領域等「話すこと・聞くこと」、評価の観点「話す・聞く能力」の平均正答率が、国や県と比較してやや低い。(国-1.6%、県-1.6%)
- 国語Aでは、学習指導要領の領域等「書くこと」、評価の観点「書く能力」の平均正答率が、国や県と比較してやや低い。(国-2.3%、県-1.0%)
- 国語Aでは、問題形式「短答式」の平均正答率が、国と比較してやや低く、県と比較してやや高い。(国-2.4%、県+2.3%)
- 国語A・Bともに、全体の平均正答率において、学校間の差がかなり大きい。(国語A 差21.0%、国語B 差20.0%)
- 国語Aでは、学習指導要領の領域等「書くこと」、評価の観点「書く能力」に

- において、学校間の差がかなり大きい。(差 22.5%)
- 国語Aでは、問題形式「短答式」において、学校間の差がかなり大きい。(差 24.5%)
 - 国語Bでは、学習指導要領の領域等「話すこと・聞くこと」、評価の観点「話す・聞く能力」の平均正答率が、国や県と比較してやや低い。(国-2.5%、県-2.5%)
 - 国語Bでは、学習指導要領の領域等「読むこと」、評価の観点「読む能力」の平均正答率が、国と比較してやや高く、県と比較してやや低い。(国+1.1%、県-1.0%)
 - 国語Bでは、問題形式「記述式」の平均正答率が、県と比較してやや低い。(、県-2.0%)
 - 国語Bでは、学習指導要領の領域等「話すこと・聞くこと」、評価の観点「話す・聞く能力」において、学校間の差がかなり大きい。(差 33.1%)
 - 国語Bでは、学習指導要領の領域等「読むこと」、評価の観点「読む能力」において、学校間の差がかなり大きい。(差 23.1%)
 - 国語Bでは、問題形式「選択式」において、学校間の差がかなり大きい。(差 22.8%)

(3) 算数について

- 算数Aでは、学習指導要領の領域等「図形」の平均正答率が、国と比較して低く、県と比較してやや低い。(国-5.1%、県-3.0%)
- 算数Aでは、学習指導要領の領域等「数量関係」の平均正答率が、国と比較してやや低い。(国-2.9%)
- 算数Aでは、評価の観点「数量や図形についての知識・理解」の平均正答率が、国や県と比較してやや低い。(国-4.1%、県-2.6%)
- 算数Aでは、問題形式「選択式」の平均正答率が、国や県と比較してやや低い。(国-4.1%、県-1.9%)
- 算数Aでは、学習指導要領の領域等「図形」において、学校間の差がかなり大きい。(差 18.2%)
- 算数Aでは、評価の観点「数量や図形についての技能」において、学校間の差がかなり大きい。(差 20.6%)
- 算数Aでは、問題形式「短答式」において、学校間の差がかなり大きい。(差 16.7%)
- 算数Bでは、学習指導要領の領域「数と計算」の平均正答率が、国や県と比較してやや高い。(国+1.3%、県+1.8%)
- 算数Bでは、学習指導要領の領域「図形」の平均正答率が、国と比較して低く、県と比較してやや低い。(国-6.8%、県-3.8%)
- 算数Bでは、学習指導要領の領域「数量関係」の平均正答率が、国や県と比較してやや高い。(国+1.1%、県+2.4%)
- 算数Bでは、評価の観点「数学的な考え方」の平均正答率が、国や県と比較してやや高い。(国+1.3%、県+2.0%)

- 算数Bでは、学習指導要領の領域「数量や図形についての知識・理解」の平均正答率が、国と比較してかなり低く、県と比較して低い。(国-10.2%、県-5.3%)
- 算数Bでは、問題形式「短答式」の平均正答率が、県と比較してやや高い。(県+1.7%)
- 算数Bでは、問題形式「記述式」の平均正答率が、県と比較してやや高い。(県+1.5%)
- 算数Bでは、学習指導要領の領域「量と測定」において、学校間の差がかなり大きい。(差22.9%)
- 算数Bでは、学習指導要領の領域「図形」において、学校間の差がかなり大きい。(差25.0%)
- 算数Bでは、評価の観点「数量や図形についての知識・理解」において、学校間の差がかなり大きい。(差26.2%)
- 算数Bでは、問題形式「短答式」において、学校間の差がかなり大きい。(差18.2%)
- 算数Bでは、問題形式「記述式」において、学校間の差がかなり大きい。(差17.6%)

(4) 理科について

- 問題「主として『知識』に関する問題」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+6.0%、県+5.0%)
- 学習指導要領の領域等「A区分物質」の平均正答率が、国や県と比較してやや高い。(国+2.6%、県+4.4%)
- 学習指導要領の領域等「B区分生命」の平均正答率が、国や県と比較してやや低い。(国-1.1%、県-1.4%)
- 評価の観点「自然現象への関心・意欲・態度」の平均正答率が、国や県と比較してかなり低い。(国-12.6%、県-12.0%)
- 評価の観点「自然現象についての知識・理解」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+7.4%、県+5.3%)
- 問題形式「短答式」の平均正答率が、国と比較してかなり高く、県と比較して高い。(国+10.7%、県+7.1%)
- 評価の観点「自然現象への関心・意欲・態度」において、学校間の差がかなり大きい。(差27.5%)

2 中学校

データ2 学力調査結果 (中学校)

(1) 中学校全体について

- 県全体の平均正答率は、国と比較して国語A、数学A、理科でほぼ同等である。

国語B、数学Bはやや高い。

- 大山町全体の平均正答率は、国と比較して国語A、数学Aで高く、国語B、数学B、理科はやや高い。また、県と比較すると、国語A・B、数学A・B、理科のすべての教科において高い。

(2) 国語について

- 国語Aでは、学習指導要領の領域等「話すこと・聞くこと」、評価の観点「話す・聞く能力」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+8.7%、県+9.7%)
- 国語Aでは、学習指導要領の領域等「読むこと」、評価の観点「読む能力」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+6.2%、県+7.4%)
- 国語Aでは、学習指導要領の領域等「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、評価の観点「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+6.3%、県+5.5%)
- 国語Aでは、問題形式「選択式」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+6.8%、県+6.7%)
- 国語Aでは、学習指導要領の領域等「話すこと・聞くこと」、評価の観点「話す・聞く能力」において、学校間の差が大きい。(差7.2%)
- 国語Bでは、学習指導要領の領域等「話すこと・聞くこと」、評価の観点「話す・聞く能力」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+6.7%、県+7.5%)
- 国語Bでは、学習指導要領の領域等「読むこと」、評価の観点「読む能力」の平均正答率が、国と比較してやや高く、県と比較して高い。(国+4.3%、県+5.5%)
- 国語Bでは、問題形式「選択式」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+7.2%、県+8.1%)
- 国語Bでは、学習指導要領の領域等「話すこと・聞くこと」、評価の観点「話す・聞く能力」において、学校間の差が大きい。(差7.2%)
- 国語Bでは、学習指導要領の領域等「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、評価の観点「言語についての知識・理解・技能」において、学校間の差が大きい。(差8.9%)
- 国語Bでは、問題形式「記述式」において、学校間の差が大きい。(差6.5%)

(3) 数学について

- 数学Aでは、学習指導要領の領域等「図形」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+7.3%、県+7.6%)
- 数学Aでは、学習指導要領の領域等「関数」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+7.6%、県+7.9%)
- 数学Aでは、学習指導要領の領域等「資料の活用」の平均正答率が、国や県と比較してかなり高い。(国+10.1%、県+10.3%)
- 数学Aでは、評価の観点「数量・図形などについての知識・理解」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+8.0%、県+8.1%)
- 数学Aでは、問題形式「選択式」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国

- +7.4%、県+7.8%)
- 数学Aでは、問題形式「短答式」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+5.1%、県+5.4%)
 - 数学Aでは、学習指導要領の領域等「数と式」において、学校間の差が大きい。(差9.2%)
 - 数学Aでは、学習指導要領の領域等「資料の活用」において、学校間の差が大きい。(差7.1%)
 - 数学Aでは、評価の観点「数学的な技能」において、学校間の差がかなり大きい。(差11.9%)
 - 数学Aでは、問題形式「短答式」において、学校間の差がかなり大きい。(差11.7%)
 - 数学Bでは、学習指導要領の領域等「関数」の平均正答率が、国と比較してやや高く、県と比較して高い。(国+3.5%、県+6.3%)
 - 数学Bでは、学習指導要領の領域等「資料の活用」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+6.4%、県+7.1%)
 - 数学Bでは、評価の観点「数学的な技能」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+8.6%、県+9.0%)
 - 数学Bでは、問題形式「短答式」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+7.5%、県+8.5%)
 - 数学Bでは、問題形式「記述式」の平均正答率が、国と比較してやや低く、県と比較してやや高い。(国-1.2%、県+1.0%)
 - 数学Bでは、学習指導要領の領域「数と式」において、学校間の差がかなり大きい。(差10.0%)
 - 数学Bでは、学習指導要領の領域「図形」において、学校間の差がかなり大きい。(差21.6%)
 - 数学Bでは、評価の観点「数学的な見方や考え方」において、学校間の差がかなり大きい。(差12.8%)
 - 数学Bでは、問題形式「選択式」において、学校間の差がかなり大きい。(差12.5%)
 - 数学Bでは、問題形式「記述式」において、学校間の差がかなり大きい。(差11.0%)

(4) 理科について

- 問題「主として『知識』に関する問題」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+7.1%、県+7.0%)
- 問題「主として『活用』に関する問題」の平均正答率が、国と比較してやや高く、県と比較して高い。(国+4.1%、県+5.0%)
- 学習指導要領の領域等「A区分エネルギー」の平均正答率が国と比較してやや高く、県と比較して高い。(国+4.3%、県+5.2%)
- 学習指導要領の領域等「B区分地球」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+6.5%、県+6.8%)

- 評価の観点「自然現象への関心・意欲・態度」の平均正答率が、国と比較して低く、県と比較してやや低い。(国-6.5%、県-4.0%)
- 評価の観点「観察・実験の技能」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+6.6%、県+7.0%)
- 評価の観点「自然現象についての知識・理解」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+6.9%、県+6.1%)
- 問題形式「選択式」の平均正答率が、国と比較してかなり高く、県と比較して高い。(国+6.1%、県+6.4%)
- 学習指導要領の領域等「A区分エネルギー」において、学校間の差が大きい。(差5.4%)
- 学習指導要領の領域等「B区分生命」において、学校間の差が大きい。(差8.2%)
- 評価の観点「自然現象への関心・意欲・態度」において、学校間の差がかなり大きい。(差11.6%)
- 評価の観点「自然現象についての知識・理解」において、学校間の差が大きい。(差6.7%)
- 問題形式「短答式」において、学校間の差が大きい。(差7.9%)
- 問題形式「記述式」において、学校間の差が大きい。(差9.5%)

Ⅲ 児童生徒質問紙調査の結果（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ共通）

1 小学校

データ3 小学校児童質問紙回答結果集計

- (1) 鳥取県と国を比較して、大きな差が見られる項目
- ・ 住んでいる地域の行事に参加している割合・・・国より5.5%高い
 - ・ 週末、家で勉強や読書をしている・・・国より5.7%高い
 - ・ 週末、スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている
・・・国より7.2%高い
 - ・ 週末、友達と遊んでいる・・・国より5.2%高い
 - ・ 理科の授業で、自分のまわりの人に説明や発表している割合
・・・国より8.0%高い
 - ・ 放課後に習い事（スポーツ以外）をしている・・・国より12.2%低い
 - ・ 算数の勉強が好きな割合・・・国より5.5%低い
- (2) 大山町全体の傾向（肯定的な回答の割合の比較）
- 県と比較して、10%以上高い項目
 - ・ 放課後、家族と過ごしている

○県と比較して、5%以上高い項目

- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・ 週末、家族と過ごしている

○県と比較して、5%以上低い項目

- ・ 家で、学校の授業の予習・復習をしている
- ・ 5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか
- ・ 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか
- ・ 放課後、スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている
- ・ 週末、スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている
- ・ 週末、友達と遊んでいる

○県と比較して、10%以上低い項目

- ・ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う
- ・ 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか
- ・ 放課後、学習塾など学校や家以外の場所で勉強している
- ・ 放課後、友達と遊んでいる

○学校間の差が25%以上の項目

- ・ 自分には、よいところがあると思う
- ・ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う
- ・ 家で、自分で計画を立てて勉強をしている
- ・ 家で、学校の授業の予習・復習をしている
- ・ 放課後、家で勉強や読書をしている
- ・ 週末、友達と遊んでいる
- ・ 5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う
- ・ 今住んでいる地域の行事に参加している
- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある
- ・ 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか
- ・ 算数の勉強は好きだ
- ・ 算数の授業の内容はよく分かる
- ・ 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える
- ・ 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている
- ・ 理科の勉強は好きだ

- ・ 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える
- ・ 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
- ・ 理科の授業で、自分のまわりの人に説明したり発表したりしていますか
- ・ 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている
- ・ 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している
- ・ 5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思いましたが
- ・ 5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができましたか
- ・ 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか
- ・ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

2 中学校

データ4 中学校生徒質問紙回答結果集計

(1) 鳥取県と国を比較して、大きな差が見られる項目

- ・ 朝食を毎日食べている割合・・・国より 11.5%高い
- ・ 今住んでいる地域の行事に参加している割合・・・国より 8.0%高い
- ・ 新聞を読んでいる割合・・・国より 7.2%高い
- ・ 家で、学校の授業の予習・復習をしている割合・・・国より 7.9%低い
- ・ 放課後、学校の部活動に参加している割合・・・国より 9.5%高い
- ・ 放課後、学習塾など学校や家以外の場所で勉強している割合
・・・国より 7.7%低い
- ・ 放課後、友達と遊んでいる・・・国より 10.7%低い
- ・ 週末、学校の部活動に参加している割合・・・国より 5.4%高い
- ・ 週末、学習塾など学校や家以外の場所で勉強している割合
・・・国より 6.4%低い

(2) 大山町全体の傾向（肯定的な回答の割合の比較）

○県と比較して、10%以上高い項目

- ・ 家で、自分で計画を立てて勉強している
- ・ 家で、学校の授業の予習・復習をしている
- ・ 今住んでいる地域の行事に参加している
- ・ 数学の勉強は好きだ
- ・ 理科の授業で、自分のまわりの人に説明したり発表したりしていますか
- ・ 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている

- ・ 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している
- ・ 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている
- ・ 週末、学校の部活動に参加している

○県と比較して、5%以上高い項目

- ・ 予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している
- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・ 新聞を読んでいますか
- ・ 数学の授業の内容はよく分かる
- ・ 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える
- ・ 数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている
- ・ 理科の勉強は大切だ
- ・ 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える
- ・ 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
- ・ 1・2年生のときに受けた授業について、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う
- ・ 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている
- ・ 週末、家で勉強や読書をしている
- ・ 週末、学習塾など学校や家以外の場所で勉強している
- ・ 週末、スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている

○県と比較して、5%以上低い項目

- ・ 放課後、学習塾など学校や家以外の場所で勉強している
- ・ 週末、友達と遊んでいる

○県と比較して、10%以上低い項目

- ・ 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか
- ・ 放課後、友達と遊んでいる

○学校間の差が25%以上の項目

- ・ 1、2年生のときに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う
- ・ 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている
- ・ 理科の勉強は好きだ
- ・ 理科の勉強は大切だ
- ・ 理科の授業の内容はよく分かる
- ・ 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える

- ・ 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
- ・ 理科の授業で、自分のまわりの人に説明したり発表したりしていますか
- ・ 調査問題の解答時間は十分でしたか（数学B）

3 小学校と中学校の比較

データ5 質問紙調査結果の小学校と中学校の比較

(1) 大山町全体の傾向（肯定的な回答の割合の比較）

○中学校と比較して、小学校の方が10%以上高い項目

- ・ 将来の夢や目標を持っている
- ・ 今住んでいる地域の行事に参加している
- ・ 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える
- ・ 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
- ・ 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている
- ・ 理科の勉強は好きだ
- ・ 理科の授業の内容はよく分かる
- ・ 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある
- ・ 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える
- ・ 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ

○中学校と比較して、小学校の方が5%以上高い項目

- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある
- ・ 地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除きます）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることはありますか。
- ・ 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える
- ・ 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている
- ・ 理科の勉強は大切だ
- ・ 観察や実験を行うことは好きだ

○中学校と比較して、小学校の方が5%以上低い項目

- ・ 学校の決まりを守っている
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思う
- ・ 毎日、同じくらいの時刻に寝ている
- ・ 家で、学校の授業の予習・復習をしている
- ・ 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている
- ・ 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている
- ・ 5年生までの（1・2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う

- ・ 5年生までの（1・2年生のときに）受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか
- ・ 調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B・数学B）

○中学校と比較して、小学校の方が10%以上低い項目

- ・ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う
- ・ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる
- ・ 調査時間の解答時間は十分でしたか（国語A）
- ・ 調査時間の解答時間は十分でしたか（国語B）
- ・ 調査時間の解答時間は十分でしたか（算数A・数学A）

IV 調査結果のまとめ

1 学力調査結果について

- (1) 小学校においては、国と比較して国語A・B、算数B、理科でほぼ同等の平均正答率となっているが、算数Aはやや低い平均正答率となっている。県と比較すると、算数Bでやや高い平均正答率であるが、国語A、理科でほぼ同等の平均正答率であり、国語B、算数Aではやや低い平均正答率になっている。

国語科では、単元をつらぬく言語活動を大切にしたい授業づくりを進めてはいるが、「話す・聞く能力」、「書く能力」「読む能力」においては、やや低い正答率を示しているため、学習内容の定着に向けた改善が必要となっている。

算数では「量と測定」、「図形」、「数量関係」の3つの領域全てにおいて課題が見られる。授業のねらいに沿った適用題を用意することと、適用題の量と質を考えていく必要がある。教科書レベルの適用題から教科書を超えるレベルの問題まで用意することで、児童一人一人がねらいに対してどこまで到達できているのか見取ることができ、日々の授業づくりに生かしていくことができるはずである。

- (2) 中学校においては、国や県と比較して国語A、数学Aで高い平均正答率となり、国語B、数学B、理科でやや高い平均正答率となっている。

国語については、4領域全ての項目で、国や県を上回っている。特に、「話すこと・聞くこと」については大きく上回っており、小学校から続いている「言語活動を大切にしたい授業づくり」を進めてきた成果だと考えられる。

数学は、これまで課題だった「資料の活用」領域で大きな改善が見られた。年間指導計画の見直しや習熟の時間の工夫など、取り組んできた成果が見られている。また、「数学の勉強は好きですか」、「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」などの質問は、国や県の平均正答率を大きく上回り、意欲的な生徒の姿が見られる。小中連携を大切にしたい授業

づくりの取組が成果となって表れているように思われる。

- (3) 学校間の平均正答率の差については、小学校では国語A・B、理科で20%以上の差となっており、算数A・Bで10%以上の差となっている。中学校では、国語A・B、数学A、理科で5%以内の差となり、数学Bで10%の差となっている。

領域別に見ると、小学校国語Aでは、全ての領域において約20%の差があり、国語Bでは、「話すこと・聞くこと」の領域で30%もの大きな差となっている。算数A・Bでも学校間の差は大きく、特に「図形」領域では25%の差がある。

また、中学校の国語A・Bの「話すこと・聞くこと」で約7%の差があり、国語Bの「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、約8%の差が生じている。各学校が自校の結果をしっかりと分析し、学級経営や生徒指導を含め、日々の授業改善に取り組むとともに、放課後学習や家庭学習などとの関連を図り、学習内容を定着するための反復徹底を図るサイクルの構築が必要である。

校区の小・中学校が9年間を見通した生徒像を共有し、今回の調査で見えてきた課題を共有し学力向上に取り組むことが重要である。

2 質問紙調査結果について

- (1) 小学校においては、「自分には、よいところがあると思う」の肯定的な回答割合が国や県よりもやや低い結果となり、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の肯定的な回答割合は、かなり低い結果となっている。子ども達の自尊感情や自己有用感を高める取組の早急な改善が必要であると思われる。

一方で、「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した割合は、国や県よりもやや高い。各学校がふるさと教育を推進し、地域の方々とのつながりを大切にしたい取組を行っていることが成果となって表れている。

- (2) 中学校においては、「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校の授業の予習・復習をしている」の項目において、肯定的な回答割合が国や県よりもかなり高い。小学校での自主学習ノートの取組や中学校での定期考査にむけた取組、大山町版家庭学習の手引きの活用など、小中連携の中での様々な取組が成果となって表れている。しかし、学校の授業時間以外に平日1日あたり1時間以上勉強している割合は、国や県と比較しても依然として低く、質・量ともに充実した家庭学習となるよう取り組んでいく必要がある。

一方で、「数学の勉強は好きだ」「数学の授業はよく分かる」において、肯定的な回答割合が、国や県と比較してかなり高い結果となっている。適用題を充実させ、「できる」「わかる」授業の取組が成果となって表れている。授業の成果が家庭学習に結びつくように工夫しなければならない。

